

長唄 犬神

へ 蠅營たる狗苟と韓非に載せられし 卷尾けんてい自ずから

へ この身に受けて浅ましや

チツツンロンロン

ドン

へ ヒー 天 ト、来序 打行

へ かづく玉藻に

ドンッチン、コチリチレチレンテン、 ツンツンツン、

ハア 天

フヨイ 天

ツハ △

ツク ツ

ハア

天 イヤ 天

へ たちまち

ツン、ハハハハハハハハ

ハタ

ハ △

ヤ

へ 見るに

ハ △

ト、三ツ地 ツツケニ

ハア ○

ヤア

ツハ ○

シ

ヨイ チン、

チン、

チリチリチリツツテンテン

ス

タ

ハ △

スグ

へ 有様や

チンチンドン チンチンテンチン

ツ ツ

天

ト、

出端越

ニクサリ 上テ 打込

天 イヤ 天

打出

付頭 越ノ手

受頭 ウケ

越ノ手

ツツケ 扣

受走 受三ツ地

ツツケ 扣

打放 ツメ

越ノ手

打放 ツメ

打込

へ 焦がれて燃ゆる狐火は

ハ

へ 焔となつて

ス

ヲシ

フヨイ

ヨイ

へ 煩悩の犬の

ヲシ

四ツ間

○

へ 絆に繋ぎ

フヨイ

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

へ 臥して見 寝て見 執着の なお去りやらぬ思いにより 嫁入り嫁入りと里の子に
へ 離し立てられしつぼりと 露のかごとを草枕

へ 独り葎の床の内

タ △

ヤア

ト、

別ニ

扣へ

へ 眠るとすれど犬塚の

へ ちやつと起き立ち
へ 身を振る尾花

ハ

フヨイ

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

ハ

ス

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

突掛 ヲロシテ 扣へ

へ 親の別れのその場より

扣へ

へ と ころ

ツン、テン、チン、チンチンチン、

チンチンツン

チリ、ツン、

テンツン

へ 恋

チ、チン、

テンツツチチテン

トツトン

○

○

○

○

○

△

タタ

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

コミナシ

ツハ△ト、三ツ地片地

天^ンハヲ
ヲ
ロ
シ
イヤ
タ△^{レテ}ン